

子どもの心への影響

「学校がつまんなくなかった」。子どもたちがそう言い出したのは、政府が臨時休校を要請してから半年ほど経過した二〇二〇年秋ごろだった。千駄谷小学校（東京都渋谷区）の中野有一郎校長は、当時副校長として勤務していた江東区の小学校での記憶をたどる。（奥野斐） ●面参照

2020年2月	安倍晋三首相(当時)が全国一斉の臨時休校を要請
3月	文部科学省が新型コロナ対策の学校再開ガイドライン公表
4月	国が「GIGAスクール構想」を前倒しする方針
4~5月	緊急事態宣言で休校が長期化
6月	緊急事態宣言解除に伴い東京などで学校再開。分散登校も
7月	全国の9割の自治体で夏休みを短縮
12月	文科省が合唱時のマスク着用など対策徹底を通知
21年1月	首都圏1都3県に2回目の緊急事態宣言
8月	東京パラリンピックの学校連携観戦の辞退相次ぐ
22年1月	オミクロン株の影響で休校・学級閉鎖増加
5月	文科省が登下校時の「マスク不要」通知
23年2月	文科省が卒業式で「マスクを外すことを基本とする」通知
3月	文科省が4月から「マスクの着用を求めない」通知

デジタル授業定着 選択肢生かして

コロナ禍の

教訓

5類移行

学校が再開しても友達とは一定の距離を保ち、給食は「黙食」。音楽の授業ではリコーダーは吹けず、歌うこともままならない。遠足も運動会も中止。「学校が静かに勉強だけをする場所になった。学校とは何かを突きつけられた」

国立成育医療研究センターは二〇二〇〜二一年に計七回、延べ約四万五千人の親子を対象にコロナに関する調査を実施した。「コロナのことを考えるとイヤだ」と答えた子どもは各回二〜四割。中野校長が「つまんない」との声を聞いた時期に当たる二〇年九〜十月の調査では、コロナによる変化について「理由をわかりやすく教えてくれな

い」が17%、「考えを伝えても取り入れようとしてくれな

い」が18%だった。同センターの山口有紗医師は「自分たちの考えが反映されることは、子どもたちの心の状態に影響する。子どもの意見を聞く重要性が、コロナ禍で再認識された」と指摘する。

一方、コロナ禍が後押ししたのがデジタル化だった。全国の小中学生にパソコンやタブレット端末を一人一台配る「GIGAスクール構想」は、オンライン授業の必要に迫られて加速。千駄谷小でもデジタル授業が根付いてきた。毎週月曜の全校朝会も、児童三百二十人が校庭に集まるのは月一回。残りはオンラインで実施され、中野校長が各教室のテレビ画面越しに語りかける。移動時間の節約にとどまらず、写真などの参考画像も活用できる。

「いたずらにすべてコロナ前に戻すことはしない。増えた選択肢を、子どもたちによりよい形で生かさない」と中野校長は強調する。

コロナ禍に翻弄されてきた子どもとどう向き合うか。山口医師は「子どもたちがどう工夫して乗り越えてきたか。子どもの声に耳を傾け、良かった面にも注目して一緒に振り返って」と求める。

千駄谷小の休み時間。コロナ禍の最中で入学した四年生は口々に「友達と机をくっつけて給食を食べたい」「遠足が楽しい」「マスクを外して出かけた」。数えると七割がマスク着用。「入学からずっとマスクだから、外すと恥ずかしい」「着けてた方が落ち着く」。外している子も、ポケットにマスクを忍ばせていた。子どもたちの心の底には、コロナの影響がまだ横たわっている。

子どもの後遺症 1ヵ月後も3.9%

小児科学会調査

国内で新型コロナウイルスに感染した子どものうち、発症から一ヵ月以上たっても続く後遺症がある割合は3.9%だったとの調査結果を日本小児科学会の研究チームが一日までにまとめた。発熱やせき、嗅覚障害、倦怠感などが目立ち、入院したり、学校を休んだりしたケースもあった。子どもの後遺症に関して国内でまとまった数のデータが判明するのは初めて。

大人に比べると少ないが、子どもも一定の割合で後遺症に悩んでいる実態が判明。コロナの法的な取り扱いには五月八日に五類に引き下げられるが、後遺症の治療、相談体制の整備は今後も課題となる。

研究に関わった聖マリアンナ医科大学の勝田友博准教授（小児感染症学）は、「半年後までに良くなることが多いが、気になる症状があれば気軽にかかりつけ医に相談してほしい」と呼びかけている。

二〇二〇年二月から三年の四月十一日までに学会のデータベースに小児科医らから任意で寄せられた〇〜十五歳を中心とした二十歳未満の感染者四千六百六人の情報を分析。明らかに他の病気の影響と考えられるケースは除外した。

一ヵ月後も症状が残っていたのは百八十一人で30%に発熱やせき、18%に嗅覚障害、17%に倦怠感、15%に味覚障害があった。嗅覚や味覚の障害はオミクロン株が広がった二一年以降は発症する割合が減った。

他に腹痛や頭痛、下痢、嘔吐なども報告された。数は少ないが筋肉痛、意識の障害や胸の痛み、うつ状態の症例もあった。大人ではオミクロン株流行前の感染者の三〜四人に一人に半年後も症状が出たとの報告がある。

報告のあった子どもの 新型コロナウイルス後遺症の主な症状と割合

（日本小児科学会のデータベースによる。小数第一位を四捨五入）

